医療・介護・福祉のシゴトとサービス

入居者の方々が生きがいを持ち、安心して心豊かに生活することを目指す施設

軽費老人ホーム

社会福祉法人
東京都社会福祉協議会
東京都高齢者福祉施設協議会

東京都内の高齢者福祉施設でつくる東京都高齢者福祉施設協議会では、さまざまな職種の人々が連携してよりよい福祉と介護の提供にまい進しています。
本シリーズは今年度6回の掲載を通じて、現場の魅力や施設の取り組みをお伝えします。今回は「軽費老人ホーム」を紹介。次回は2018年3月の掲載を予定しています。

東京都高齢者福祉施設協議会とは？

東京都高齢者福祉施設協議会は、東京都内の特別養護老人ホーム、養護老人ホーム、軽費老人ホーム、地域包括支援センター、在宅介護支援センター、デイサービスセンターを会員とする組織です。
（会員数約1,200施設・事業所）

東京都
高齢者福祉施設協議会
マスコットキャラクター
「アクティブル」

軽費老人ホームとは

軽費老人ホームは、一人暮らしへの不安や家族の状況、経済的な問題、高齢で住まいの保証人が見つからないことなどのさまざまな事情により、在宅での生活が困難となっている自立した60歳以上の高齢者に対して、低額な料金で住まいと食事・入浴・生活支援・安否確認・緊急時の対応などを提供する施設です。

都内の軽費老人ホームは、制度化された当時の社会背景、人員配置基準、サービス内容などによって、軽費老人ホームA型、軽費老人ホームB型、ケアハウス、都市型軽費老人ホームの4種別があります。

※軽費老人ホームB型は、現在新規の入居者の募集はしておりません。

軽費老人ホーム	養護老人ホーム	特別養護老人ホーム
身の回りが自立している高齢者が対象。福祉の支援機能をもつ。	環境・経済などの理由で自宅で生活できない方が対象。	要介護認定された方が対象。

東京都
高齢者福祉施設協議会
副会長 軽費分科会長
社会福祉法人 楽友会
偕楽荘　施設長
鶴岡（つるおか） 哲也（てつや）

軽費老人ホーム（以下「軽費」）は昭和36年に創設され、時代の移り変わりによる社会情勢の変化に応じて新たな種類の施設が制度化され、社会的役割も変化してきました。

そのなかで共通するのは、主に自身で生活できる人のための施設であり、加齢により心身機能が低下するなかで、能力をできる限り維持して、自立した生活を続けていただくことです。積極的な介助はかえって自立度を下げてしまうこともあるため、見守りによる安心感を提供しつつ本人の能力を引き出します。また、老人福祉法に由来する施設であることから、福祉に関する支援も受けられます。

高齢者がますます増加し、介護や認知症の予防の必要性が高まるなかで、自立高齢者の生活を維持する「軽費」ならではの知識や技術は、地域の皆さまのお役にたてると考えております。

今後「軽費」は、地域の高齢者の健康に貢献できるよう、情報発信や地域活動にまい進してまいります。

軽費老人ホームA型

社会福祉法人 楽友会
偕楽荘　副施設長
岡（おか） 靖晃（やすあき）

「軽費」での支援は、高齢者の自立支援を基本に日常生活で少し手の届かないところをケアすることであり、役割は入居者の家族に近いといえます。入居者から、帰宅時の「おかえりなさい」や風邪のときの「大丈夫ですか？」といった声かけがうれしいと言われることもあり、そうした何気ない一言を大切にしています。

施設では、入居者の方々が安心して暮らせるよう、緊急時に利用する連絡先やかかりつけの病院や持病、既往歴などを記入する携帯カードを配布するなどの取り組みを行っています。また、自立を維持し、健康寿命を延ばす取り組みも行っています。

偕楽荘の特長

介護予防に力を入れており、理学療法士と協働した体力測定の結果に基づいた施設のオリジナル体操を実施しています。さらに、施設の管理栄養士による料理教室を実施しています。また、地域との交流を大切にしており、上記の活動や施設でのクラブ活動などに、地域の方々にも参加いただいております。

軽費老人ホームA型とは

昭和36年に「軽費」として最初に設立された種別で、時代背景から福祉施設としての性質が比較的強く、嘱託医や看護師がおり、介護職員が多いなど人員配置が手厚いことが特長です。

ケアハウス

社会福祉法人 博愛会
ハーモニー松葉　施設長
山田（やまだ） 建（たける）

ケアハウスは自立した方が入居されますが、その生活をできるだけ長く続けるための支援を心がけています。そのために、「楽しめる、安心できる、元気になれる」環境づくりを大切にしています。

入居者が生きがいや楽しさを感じられるよう、庭の園芸活動やイベントの企画などは、入居者と職員が協働して行うようにしています。当施設は比較的小規模のため入居者のご意見を行事や活動に反映しやすく、一緒に企画することでより満足いただけるものがつくれると感じます。

入居者は自立高齢者のため、職員の働きかけへの反応が見やすく、喜んでいただける姿が見られることは職員のやりがいになっています。

長く住み続けたいと思われる施設づくりのためには、職員の専門性を高めることが大切です。そのため、外部の研修には積極的に参加してもらっています。また、地域との交流機会を多く持つことで、企画に取り組む際の協力体制を築くようにしています。

入居者と職員がともに地域と関われる施設づくりを今後も進めてまいります。

ハーモニー松葉の特長

特養を併設しないケアハウス発祥の施設で、小規模でアットホームな施設です。

地域との関わりを重視しており、行事には積極的に参加し、近隣施設や商店街と協働して防災訓練やお祭りも行っています。介護予防のモデル事業として、介護予防体操教室を稲城市から受託し実施していることも地域交流につながっています。

ケアハウスとは

平成元年に制度化された種別で、住まいとしての性質が強い施設です。施設内はバリアフリー構造で、トイレやミニキッチンのある施設も。入居一時金が必要な施設もあります。軽費老人ホームA型・都市型軽費老人ホーム・ケアハウスでは必要な介護は原則、外部サービスを利用します。

「特定ケアハウス」は、入居要件として要介護認定を受けていることが特長で、軽費老人ホームA型やケアハウスと特養との中間施設といえます。介護機能を備え重度化にも対応しており、機能訓練や医療的ケアを提供する施設もあります。看取りを行うこともあります。

ケアハウス（特定施設入居者生活介護指定あり）

社会福祉法人 敬寿会
葛飾敬寿園　施設長
山田（やまだ） 広文（ひろふみ）

特定施設入居者生活介護指定を受けたケアハウス（以下「特定ケアハウス」）は要介護認定を受けた方が対象で、要介護1～5の方が入居（にゅうきょ）されます。入居者は要介護度が低い状態で入居され、長く施設で過ごされるため、関係は深くなり、看取（みと）りを希望されるケースも多くあります。

住みやすい環境をつくるため、自室への持ち込み家具はできる限り自由にし、趣味活動も続けられるようフォローをしています。また、入居者の外出の機会は少なくなりがちですが、職員の声かけや支援により近所の買い物に行くなど外出の機会を増やし、心身機能の低下を抑制し充実した生活を送れるよう心がけています。

介護職としての経験を積むにあたっては、「特定ケアハウス」は対象者が幅広いため、介護技術の勉強もでき、高齢者と共に出かけるなどの介護の醍醐味であるふれあいも体験できるよい環境です。

現状、「特定ケアハウス」は都内では数が少なく、認知度は低い状況ですが、地域との交流で認知度を向上し、地域に頼られる施設となれるよう取り組んでまいります。

葛飾敬寿園の特長

緊急の短期入所に対応しているほか、自治体や警察と連携して、認知症で自宅に帰れなくなってしまった方の措置での受け入れも行っています。

地域社会とのつながりを大切にしており、地域と合同での防犯活動や認知症予防のための映画鑑賞会、自治会の防災訓練や清掃活動への参加などをしています。

都市型軽費老人ホーム

社会福祉法人 長寿村
茂ホーム　相談員
田中（たなか） 直子（なおこ）

「軽費」では直接の介護はほぼ行わず、その方ができることを維持するためのサポートをしています。たとえば行政の窓口に行くことができても手続きができない方に、手続きのための手紙を持参していただくなどです。「できることを一日でも長く行える生活」を大切にしています。

入居者はもともと一人暮らしの方が多く、共同生活に最初は戸惑われる方もいらっしゃいます。そうした方に寄り添い、生活になじめるように調整することも大切です。できるだけ入居者と顔を合わせ、ニーズを理解できるよう努めています。入居当初は施設の生活を嫌だと言い続けていた方々が、最後に「ここに住めてよかった」と言ってくださったことは、喜びであり、励みです。

人生経験豊富な入居者から学ぶことは多く、仕事は楽しいと感じます。人と接する仕事なので大変なこともありますが、その先にある楽しみこそがやりがいだと感じています。

茂ホームの特長

入居・通所・訪問などの10事業を併設した複合施設「あやせコミュニティパーク」内にあり、同じ建物に歯科・訪問看護ステーションなどもあります。ケアマネジャーも近くにおり、気軽に相談がしやすい環境です。「家族主義」をモットーに、明るく元気で、温かく、心豊かな生活を送ることを目指しています。

都市型軽費老人ホームとは

平成23年に制度化された種別で、居室面積を小さくし職員の配置数を緩和することで、利用料を低く抑えています。都内では23区および三鷹市・武蔵野市のみの区分で、施設は小規模で入居は自治体の方に限定されるケースが多くなっています。

「東京の介護ってすばらしい！グランプリ」入賞者一覧

高齢者福祉施設での日常のさまざまな場面にスポットをあてながら、介護の仕事の魅力を広く伝える「東京の介護ってすばらしい！グランプリ」。

今年度のユニフォーム部門、ランチ部門、メッセージ部門、それぞれの受賞者を紹介します。

ユニフォーム部門

審査基準：
デザイン・機能性・清潔感・親しみやすさ・オリジナリティなど

最優秀賞

社会福祉法人 三篠会 高齢者福祉施設 神楽坂（新宿区）

	社会福祉法人名	施設名	区市町村
優秀賞	練馬区社会福祉事業団	富士見台特別養護老人ホーム	練馬区
	一誠会	偕楽園ホーム	八王子市
審査員特別賞	江寿会	アゼリーアネックス	江戸川区
	同胞互助会	愛全園	昭島市
	大三島育徳会	デイサービス博水の郷	世田谷区

ランチ部門

審査基準：
味・栄養バランス・季節感・盛り付け・食べやすさなど

最優秀賞

社会福祉法人 清明会 清明園・浅川ホーム（八王子市）

	社会福祉法人名	施設名	区市町村
優秀賞	大和会	愛生苑	多摩市
	泉陽会	新町光陽苑	北区
審査員特別賞	亀鶴会	特別養護老人ホーム神明園	羽村市
	一誠会	偕楽園ホーム	八王子市
	練馬区社会福祉事業団	上石神井特別養護老人ホーム	練馬区
	アゼリヤ会		八王子市
	長寿村	足立翔裕園	足立区

メッセージ部門

最優秀賞

「おかあさんのしごと」

審査基準：
感動・構成・わかりやすさ・独創性など

	タイトル
優秀賞	「人生のオーラス」
	「東京の母へ」
審査員特別賞	「三人四脚の介護生活」
	「いつまでもお母さん」
	「言葉にできない思い」
	「帰宅」
	「介護士ンガーの思い」
	「笑顔に優る介護なし」
	「すばらしい介護と私の再発見」
	「あなたの後ろ姿は、かっこいい！」
	「600歳まつり」
	「どっちがケアする側なのやら…」

企画・制作　東京新聞広告局

社会福祉法人 東京都社会福祉協議会 東京都高齢者福祉施設協議会　新宿区神楽河岸 1-1　03-3268-7172（平日・9時～17時45分）

くわしい活動内容は　東京 高齢協議会　検索